

すみよし



2014 クリスマス号 第194号

[目次](#)

聖句

神様の愛はしみとおる
私たちの心に日の光のように
海も小川も
鳥も獣も
大人も子供も一緒に
賛美の歌を歌おう

詩編 148

選：フランシスコ・ザビエル
K. T.



[目次](#)

《クリスマスの心》

ブラッドリー・ロザイロ 神父

毎年この時期に入ると全世界がキリストがお生まれになったことを祝います。神様が人となってこの世に来られました。これはクリスマスです。私たちはキリストを通して神がどれほど我々を愛しておられるかを知ることが出来ました。私たちが神から生まれるように、神が私たちからお生まれになることを望んでおられます。神様が私たちからお生まれになる！のは、私たちの日々の思いやり、親切、小さな愛の行いをする時ではないでしょうか。ここで“クリスマスの心”について分かち合いたいと思います。

クリスマス三日前のことです。町や人々やスーパーなどクリスマスラッシュで忙しく日本の年末の雰囲気のように。買い物が好きなラナさんは家族の皆さんにクリスマスプレゼントを買いに行きました。大勢レジで列を作って並んでいました。ラナさんの前にだいたい10歳と5歳ぐらいの子供がいました。二人ともぼろぼろの服を着ていました。男の子は手にくしゃくしゃの3ドル札を持っていました。女の子の顔には夕食の残りがついていました。その子は金色のきれいな靴を手を持っていました。

30分待ってやっと会計のところに着いた女の子は、靴をテーブルの上に宝物のように大切に置きました。レジの人は、「6ドルです」と言いました。男の子はくしゃくしゃの3ドル札を渡して自分のポケットを捜していました。そして女の子に言いました。「お金が足りないからこの靴を買うことができない。また買いに来よう、出来たら明日」。女の子はすすり泣いて、「でもイエス様はこの靴が好きなんだよ」と言いました。男の子は、「泣かないで。私たちは家に帰ってもっと働いてまた買いに来よう」と言いました。

この会話をずっと聞いていたラナさんは思いました。この子たちも私と同じようにずっと順番を待っていた。それに、もうすぐクリスマス。それでラナさんは急いで3ドル札を会計に差し出しました。びっくりした顔で女の子は、「ありがとう」と言いました。ラナさんはその子に尋ねました。「さっき、あなたは『イエス様はこの靴が好きなんだよ』と言ったでしょう。それはどういう意味？」その子は言いました。「お母さんは病気でクリスマスの前に天国に行くかもしれないとお父さんに言われた。天国の道はこの靴のように金色に輝いていると日曜学校の先生から聞いた。ママはこの靴を穿いて天国の道を歩いたらきれいと思わない？」。

涙であふれている女の子の顔を見てラナさんも泣いて、「そうだね、私もそう思うよ」と言いました。

家に帰ったラナさんはこの子供を通してクリスマスの心を教えてくださった神に感謝しました。

皆さん、この小さな愛の行いを通して、神様がラナさんからお生まれになることが出来たと思いませんか。

私たちは特に小さくされた人や弱い人を大事にし、彼らと神の愛を分かち合う時に神様が私たちからお生まれになることが出来ると思います。そんな思いを持ってクリスマスを迎えましょう。

[目次](#)



目 次



☆ 聖句	K. T.	・ ・ ・	2
☆ 巻頭言	ブラッドリー神父	・ ・ ・	3
☆ 目次		・ ・ ・	4
☆ 前田万葉大司教着座式		・ ・ ・	5-6
☆ 待降節黙想会		・ ・ ・	7-8
☆ ふっこの架け橋プロジェクト		・ ・ ・	9-10
☆ 中高生高松巡礼		・ ・ ・	11-12
☆ 十字架称賛と恵(敬)老		・ ・ ・	13
☆ (入信の記)		・ ・ ・	
☆ 祈念堂委員会から	N. K.	・ ・ ・	14-15
☆ セニョール・デ・ロス・ミラグロス		・ ・ ・	16-17
☆ 2014 年チャリティーバザー	M. N.	・ ・ ・	18-19
☆ 七五三の祝福		・ ・ ・	20-21
☆ 図書案内	M. T.	・ ・ ・	22
☆ (教会日誌・信徒動静)		・ ・ ・	
☆ 後記		・ ・ ・	23

題 字
表紙画

J. Y.
U. M.



《トマス・アクィナス 前田 万葉大司教 着座式》

9 月 23 日（火・祝）青空の下、14:00 から前田万葉大司教着座式が大阪明星学園マリアンホールでおこなわれました。住吉教会からも兵庫・神戸中央・六甲教会等の方々と共に準備されたバス等で、多数参加しました。

バスは開始 1 時間前には到着しましたが既に長蛇の列。前田大司教の出身地、長崎教区や前任地広島教区からの参加者も多く、マ

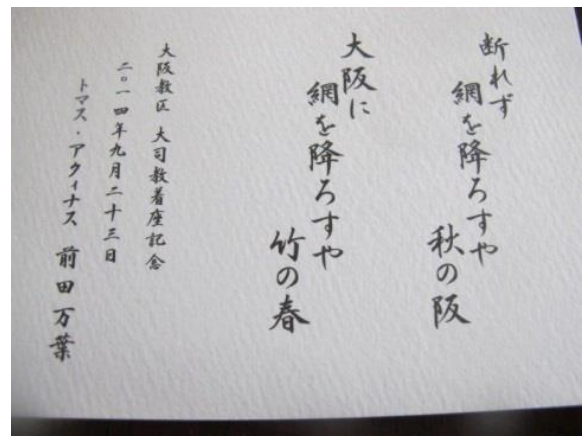
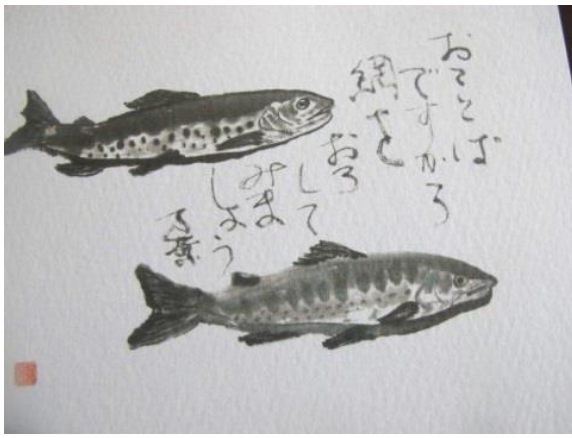
リアンホールに入れない方々は地下ホールで大きなスクリーンに映される画面を見ての参列となりました。総数 2 5 0 0 名余との事でした。

司式は日本の 1 5 名の司教団と大阪、長崎、広島教区等の 2 0 0 名余の司祭団、（先導した侍者団には大阪明星学園の学生である住吉教会の K.T. 君も）満席の信徒達の見守る中、喜びと感謝の内に盛大に行われました。日本カトリック司教協議会会長、岡田大司教の開会の挨拶、駐日ローマ法王庁臨時大使からのメッセージに続き、教皇フランシスコからの任命書が読み上げられ、池長大司教から感謝のお言葉に引き続き、バクルス（牧杖）が手渡されました。前田大司教は、先日の大災害の広島にお心を留められながらの大阪着任にあたり、信徒の方々が温かく送り出して下さった事にお礼をのべられ、大阪教区の司教座に着かれました。

感謝ミサの中での説教は、「万葉」と言う名は、今は亡き叔父、前田 朴神父と父上からいただかれた名である事、当日配られたカードに添えられた 2 匹のさかなの絵と句「おことばですから網をおろしてみましよう」（ルカ 5・1～11）は、広島教区司教をお受けになる時も添えられたと言われ、今回広島から大阪へこられるにあたっては「なぜ私が？・・・」という思いからの心の葛藤を経て、祈りの中で先の句にたどりつかれたご心境を話されました。その裏面には「大阪に網を降ろすや秋の阪」「断れず網を降ろすや竹の春」の 2 句がそえてありました。竹は春に葉が枯れる。が、土の中でしっかり根をはり秋には新しく伸び成長する。震災後、20 年間「交わり証する教会」として蓄えてきた大阪教区の力を知り、自分の使命を神にゆだね、神の思いの中で共に歩んで行こうと思えるようになったと言われました。ミサの後、阪神淡路大震災後に着任され 18 年間、大変なご苦労と共に私達を導き共に歩んで下さった池長大司教と、これから新しく大阪に網をおろして私達を導き、共に歩んで下さる前田大司教に感謝の花束と盛大な拍手がおくられました。

ミサ後の祝賀会では前田大司教に「うーこん殿」の人形が プレゼントされました。参加者全員の喜びに満ち溢れた会場のどこかに、微笑んで共にいてくださる主が全ての人の信仰と働きを祝福し、導いて下さいますように。震災後、私達をご指導下さった池長大司教と、これから共に歩んで下さる前田大司教を主がお守りくださいますように。

（編集部）



バクルスが手渡され、新大司教の誕生



生藤神父を囲んで

[目次](#)

《待降節黙想会》

11月30日 待降節第1主日

講話 高山 親神父（六甲教会・イエズス会）

イエズス会の高山 親神父様によるミサと黙想会が行われました。黙想会では時にユーモアを交え、漢字を使った興味深いお話をして下さいました。

ミサ説教

マルコ 13・33 「目を覚ましていなさい」

毎年待降節には、4本のロウソクや「待ちわびた者」を表す色＝紫を使って信者の心を慣らしていく。街では商戦が賑やかだが、その喧噪と私たち信者の違いに目を留めてみたい。イエスの頃の人々は立派な救い主を待っていた。しかし実際イエスが来られた時、殆ど誰も気づかなかった。「待っているもの」と「約束されたもの」は違う。もしも自分が迷子になったとしよう。どんな高価なものを与えられても「親との出会い」に勝るものはない。私たちが待つべきはイベントではなく「主」そのものである。私たちは洗礼の恵みと信望愛の祈りで満たされていく。キリストと出会い、福音の喜びを伝えて行くことに、私たちの希望・いのち・救いがある。「ともにいて下さる神」を世界に証していけるよう、私たちの心と生き方を4週間かけて準備しましょう。



黙想会

—あなたの息を送って下さい 全てが新たになるように—心を合わせて歌うところから、黙想会は始まりました。

腰に帯を締め、ともし火をともししていなさい。主人が婚宴から帰って来て戸をたたくとき、すぐに開けようと待っている人のようにしていなさい。主人が帰って来た時、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。はっきり言うておくが、主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕してくれる。主人が真夜中に帰っても、夜明けに帰っても、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。（ルカ 12・35）

今日の福音のマルコも同じ箇所だが、僕と主人の立場は逆転している。
ルカの福音書には、多くの秘められた約束が述べられている。神の偉大な心に感謝し、黙
想したい。



「寺」という字を、古来「正しく量るための役割」「人の心が集まる場所」と解し、それ
を現代の教会にあてはめると様々な場面が浮かんでくる。

- +行＝「待」何のために教会へ行く？ 神の恵みを待つために。
 - +日＝「時」教会は、毎日心を合わせ時を過ごす場所。
 - +人＝「侍」侍者。人が教会を守り、教会は人（魂）を守る。
 - +言＝「詩」詩編。神の御業を讃えてうたう。
 - +手＝「持」教会に持ってきて持ち帰る。すべて魂との関わりの中で。
 - +牛＝「特」いけにえを捧げる。それは特別なもの。
 - +山＝「峙」対峙。そびえる。教会が山を越えて行く。
 - +草+日＝「蒔」私たちは色々なものを人々に持って行く使命がある。
- これらすべての漢字には、待降節の過ごし方が現されている。

待降節・・・言葉通りに受け止めると私たちが一方的に待つようだが、実際は「神が」
私たちを待っていて下さる。システィーナ礼拝堂の天井画に神と人の出会いの場面がある
が、まさにその絵のように、神が人間の手を引いていく。

無償の愛でいつも待っていて下さる神。ともに痛み、ともにいて下さる神。
神は私たちが命を授かる前から、一人ひとりの事を分かっている。だから私たちは
一人ではない。一人の信仰から始まっても、共同体として神の御業を全世界に証しするこ
とができる。

降誕を待つ間、自分を静かに振り返り、信仰の道を顧みることが大切である。
人々に宿るキリストの姿を感じ、周りの世界への痛みの共感や責任も考えたい。待つ間に
心を整え、待つ間に願ひましょう。

(編集部) [目次](#)

《ふっこうのかけ橋プロジェクト》

8 月 7 日～12 日

台風のため神戸地区合同キャンプ（8 日～11 日）が中止になり、招待されていた福島の子
どもたちが住吉教会で宿泊しました。



8 日は神戸のハーブ園
自然の中思いっきり
遊びました

9 日は雨。
教会内でスイカ割り、こま回し、けん玉、ヨーヨー、
スーパーボールすくい、折り紙、ビンゴ etc…。

お昼ごはんは「たこ焼き」
と「お好み焼き」を作り
いただきました



日曜日のミサに与り、被昇天
前の大掃除をお手伝い



11日はポートタワーに上った後
コース別に行動
小学生は須磨水族館に行きました



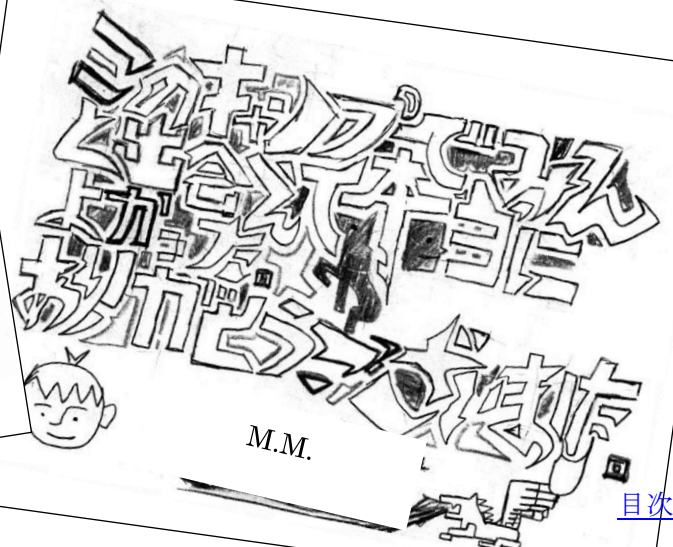
楽しい四日間を家族の
ように過ごせて感謝！

2014年 8月8日金曜日、台風により、
福島の子供達とのキャンプが中止に
なってしまう、とても残念でした。で
もまだ小雨だったため布引ハーブ園
に行きました。そこで一緒にサッカー
やバドミントンをしたりして遊び
ました。次の日曜日には、ミサをさ
さげて、一糸者にイ侍者もしました。
そして、とても仲良くなった男子と、住
所交換をして、残暑お見舞いを出
しました。年賀状も出そうと思っ
ます。
神に感謝。

I.K.

お世話して下さった方々へ
4日間ありがとうございました。キャンプは台風
で中止になってしまいましたが、それでも私たちが
楽しめるように、考えて下さいました。本当に楽し
く過ごせたので「キャンプしなくてよかった」と思っ
てしまったぐらいでした。神戸を観光できたし、神
戸の方々と交流することもできました。神戸に居て
私たちが今日で帰りますが、この4日間、神戸に居て
見た、したりしたことは絶対に忘れません(笑)。
私もみなさんのように子どもたちを喜ばせるボラン
ティア団体に入りたいと思いました。これから沢山の
子どもたちを喜ばせて笑顔にして下さい(笑)。

E.K.



M.M.

目次



《 中高生会高松巡礼 》

2014 年 8 月 17～18 日

去年から巡礼に参加していきまして、今回で 2 回目のこの巡礼ですが、私は本当に恵まれているなあと思います。2 回ともとても楽しくて、充実していたと思います。そして今回、1 日目は諏訪司教様のお話を桜町教会で聞いた後、諏訪司教様おすすめのうどん屋さんで、約 15 人前を 11 人で食べました(笑)。そして近くの栗林公園で散策しました。すごく緑が綺麗でよかったです。夕食も美味しい店で中華そばを頂きました。2 日目はミサを受けた後、小豆島にフェリーで渡りました。小豆島教会はとてもこじんまりしていて可愛らしい教会でした。そして、オリーブ園でお土産を買った後、二十四の瞳の映画村に行き、2 日目を終えました。

中 3 MY

今回で 2 回目の巡礼となりました。この巡礼では諏訪司教様の話を聞いたり、教会の歴史などを学びました。高松の教会はすごく落ち着きました。フェリーで小豆島まで行き、小豆島教会に行きました。小豆島教会はすごく小さくてかわいい教会でした。小豆島ではオリーブ園や映画村など、いろいろなところに行きました。高松では栗林公園に行きました。栗林公園はとても大きくきれいでした。また行きたいです。

高 1 NY

まず 1 日目の昼食に香川県といえうどん、ということで、諏訪司教様と一緒にうどんを食べに行きました。おいしかったです、量が多かったです。昼食の後、諏訪司教様に四国のカトリックに関する歴史を教えてくださいました。そのあとみんなで栗林公園へ行きました。1 日目から充実した 1 日になりました。2 日目は桜町教会でミサを受け、小豆島へ行きました。まずフェリーに乗って小豆島へ行き、そのあと車で小豆島教会へ行きました。小さめの教会ですが、照明などは凝った作りできれいでした。その後、二十四の瞳の映画村へ行き見学してからフェリー乗り場へ行きフェリーに乗り、高松に戻って来て、夕食を食べ、ホテルに戻り花火をしました。この高松キャンプはとても充実したものとなりました。

高 1 HF



2009 年から始まった巡礼も今回で 5 回目となりました。今年は中高生 7 人という少ない状況の中で、大いに楽しむことができたと思います。

行き帰りで 1 つの車に中高生全員が乗るという無茶ぶりも今では良い思い出です。

桜町教会でのミサは、突然オルガンなしのミサとなったのですが、皆大きな声で歌い、「歌っていいな」と改めて思いました。桜町教会でのスピーチは直前まで何も考えていなかったのであせりました。なんとか終わりましたが、二度としたくないかもしれません。その他にも栗林公園や小豆島などなど… 楽しいことがたくさんありました。

この楽しい有意義な巡礼が毎年のようにできるのは本当にありがたいことだと思います。決して中高生だけではできなかったことで、住吉教会、桜町教会、南浮リーダー、赤波江神父様、新納さん、などなど多くの方々の協力があったてできたものです。来年も皆で楽しく巡礼ができますように。

高 1 KS



諏訪司教様、赤波江神父様と



司教様おすすめのお店で



小豆島、岬の分校にて



[目次](#)



《十字架称賛の祝日と恵老の日》

9 月 14 日は「十字架称賛」の祝日でした。

十字架は本来刑罰の道具でありましたが、イエス様が十字架上の苦しみや死を避けなかったことにより、十字架は自己奉献と神の愛のしるしとなった・・・というお話が心に残りました。



また、住吉教会「恵老のお祝い」の日でもありミサの中で祝福とともに祈りが捧げられました。

感謝の祈り

いのちの与え主である主よ、
あなたは今日にいたるまでの日々を私たちに与えてくださいました。
私たちはあなたに賛美と感謝をささげます。
私たちはかつてまだ若かった頃、あなたを忘れ、あなたに背いてあやまちを犯したことも決して 少なくありませんでした。
しかしあなたは私たちをいつもゆるしてくださり、深いいつくしみをもって、今日の目を迎えるまで 私たちを導いてくださいました。
どうか私たちもあなたの愛にならって、他の人々、特に若い人たちが同じような過ちをおかしても、それをゆるすことができますように。
また私たちが他人をゆるすことによって、 あなたの愛をこの地上にあかしすることができますように。
私たちの主イエス・キリストによって。アーメン。

ミサのあとお祝いの茶話会が開かれ、サンドウィッチとクッキーを皆でいただき楽しく歓談いたしました。

人生の先輩でいらっしゃる方々に深く感謝するとともに、これからも神様の祝福が豊かにありますようにと祈りをこめて・・・(編集部)



[目次](#)

《 祈 念 堂 委 員 会 報 告 》

2014 年 10 月 18 日(土)、雲ひとつない快晴のもと、甲山共同墓地で改葬（納骨）が行われました。当日朝、祈念堂に納められていたご遺骨はバスで甲山に移され、ブラッドリー神父様の司式による改葬の祈り、灌水、献香のあと、ご遺族によって納骨されました。改葬はカテドラル納骨堂、舞子、鶴越（とべら）の各墓地でも行われ、11 月 29 日カテドラルへの最後の納骨をもって祈念堂は閉鎖されました。

〔これまでの経過〕

住吉教会の納骨堂は 1975（昭和 50）年、故谷尻治男様が発案され、永井 勝子様のご寄付により旧聖堂横に建てられました。その後聖堂建替えに伴い撤去され、新しく小聖堂の祭壇裏に設けられました。（2008 年祈念堂と改称）

納骨堂を経営するためには、神戸市の場合、教会が宗教法人として登記されていることが認可の条件となります。この点について大阪大司教区では、登記は本部のある大阪市に限り、小教区を登記することはしない方針のため、祈念堂は正式な許可を得ないまま今日にいたってきました。しかしこのままでは不具合なため、2014 年 1 月 19 日の評議会では祈念堂を廃止することが議決承認され、1 月末をもってご遺骨の預かりと生前予約を取止めることといたしました。

その後、利用者の皆様に対し説明会を開くとともに、今後の対応についてアンケートを実施いたしました。これにもとづきご遺骨の引取りをお願いする一方、教区墓地を希望される方には見学をして頂きました。

〔改葬・ご自宅へ引取り〕

アンケートにもとづき、教区墓地への申込をして頂き、教会から一括して教区に申込みいたしました。

使用許可後、9 月 20 日（土）及び 11 月 29 日（土）にカテドラル納骨堂、10 月 18 日（土）に甲山共同墓地、11 月 2 日（日）及び 17 日（月）に舞子・鶴越（とべら）共同墓地にそれぞれ改葬（合葬および個別納骨）いたしました。4 か所の墓地に改葬されたご遺骨は 63 柱となっています。

これ以外に、ご自宅またはお家の墓地に引取られたご遺骨は 36 柱となっています。

〔改葬費用〕

今回の改葬に要した費用は現在集計中です。

この支払については、これまで積み立ててきた維持費の中より充てることにします。今回数名のご遺族の方からご寄付を頂戴しております。ご厚意に対しお礼を申し上げます。

[祈念堂と祈念堂委員会の今後について]

祈念堂を閉鎖後どうするかについては、追悼の場所として残すべきという意見や、他に転用する(例 告悔室)という意見もありますので、今後の課題として検討いたします。ご意見があればお寄せください。

また、祈念堂委員会は改葬が終わった時点で発展的に解消し、新たに「墓地委員会」として発足し、主に教区墓地に関係する業務(合同墓参の案内、納骨の立ち会い、墓地利用についての相談窓口等)を行うことが 11 月の評議会で承認されました。

利用者の皆様のご理解とご協力により、円滑に改葬を実施することができましたことをお礼申し上げます。

最後になりましたが、今回の祈念堂閉鎖と改葬にあたり、教区本部事務局管理課 K.H. 課長様、A.M. 様には一方ならぬお世話になりました。ここに記して感謝の意を表します。

祈念堂委員 AT, HY, TK, HS, NK (執筆)

以上



[目次](#)

《 セニョール・デ・ロス・ミラグロス 》

10 月 26 日、日差しが暑く感じられる晴天の下、神戸地区のセニョール・デ・ロス・ミラグロス（奇跡の主）が祝われました。

オプスデイのラモス神父、コンスルタ神父、ペンケレシ神父によるスペイン語、日本語二か国語ミサに続き、教会、幼稚園敷地内の聖行列、ペルー料理の昼食後はペルーの民族音楽やダンス、ビンゴゲームなどが行われ、大勢のペルーの方が住吉教会の皆さんと楽しい一日を過ごされました。



きれいに飾られた祭壇



3 人の神父様による二か国語ミサ





子供たちが綺麗な
お花をもって登場



華やかな聖行列

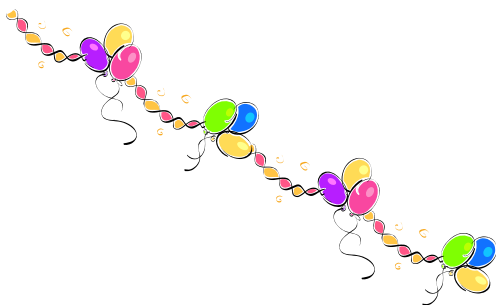


ペルーの民族衣装で民俗音楽を演奏

ペルーの民族衣装で民俗音楽を演奏



[目次](#)





《2014 年 チャリティーバザー》

CHARITY BAZAAR

2014

天気予報で「雨、」と分かっていたので、前日の準備もしっかり雨対応にしたものの、ちょっとは期待したのですが、やっぱり今年も雨のバザーとなりました。

でも、午前 11 時の開始から午後 2 時の終了まで、沢山の方々が買い物に、お食事いらして下さって、活気もあってしかも和やかなバザーとなりました。特にマリア様の前の陶器・植木・アクセサリーのお店は賑わったようですね。ゲームコーナーは、すっかり中高生・教会学校の子供たちに任されて、賞品の仕分けから小さいお客さまへの対応、ビンゴの仕切り、しっかり頑張っていました。

各コーナーの担当者の方々の万全の準備、そしてお出来になる時は精一杯の活動をしてくださる方々のお手伝い、雨の中でも買い物に来て下さる皆様のお蔭で、楽しくこのチャリティーバザーを終えられましたこと、心より感謝いたします。

特に、日曜日にもかかわらず幼稚園舎を使わせていただき、ご協力いただきました園長先生はじめ先生方にお礼申し上げます。

聞くところによれば、神戸マラソンは初回からずっと晴天だそうです。来年はちょっとあやかりいたものだと思います、でも神様はいつも私たちに一番良いようにして下さいますものね。神様への感謝とともに。

M. N.



さあ！バザーが始まります♪



ホーリーショップ
のシスターと共に

恒例の焼き鳥軍団？



素敵なインド雑貨!!

手作りお菓子、人気です♡



名MCによる
ビンゴゲーム☆



おいしい焼きそばはいかが？



おぜんざい、ほっこりしますね(^^)



ペルーのお料理 どんなお味？



キッチンの皆さん美味しいお食事有難う！

[目次](#)



《七五三の祝福》

11 月 16 日（日）
司式 ブラッドリー神父

ミサの中で、七五三を迎えた三人の子供たちに祝福がありました。
ブラッドリー神父様から祝福を受けたあと、祭壇の前に並ぶ子供たちの輝くような笑顔は、教会全体を幸せな雰囲気に包んでくれました。この三人の子供たち
住吉教会の子供たち、世界中の子供たちが、幸せに健やかに成長しますように。（編集部）

祝福の祈り

慈しみ深い神よ、あなたは幼子の口を通して賛美を全うされました。今、幼子イエスの姿を宿す子供の上に目を注ぎ、豊かな祝福を注いで下さい。この子供が健康で明るい家庭の中で両親のあたたかい愛に包まれて、あなたの恵みによって「信仰・希望・愛」のうちに心身共に成長し、神の子供として豊かな人生を送ることが出来ますように。



R. M.ちゃん



S. S.くん



W. S. ちゃん

子供たちからの祈り

神さま、私たちはお父さま、お母さまのおかげ
で七五三のお祝いをすることができました。
ありがとうございます。
これからも元気な良い子になって、神さまを
喜ばせることができますようにお守りくださ



ご両親からの祈り

全ての父である神様、この子供たちを授けて下さったこと
に感謝致します。この子供たちが強く正しく生きるために
必要なお恵みを常に与えて下さい。また私たちが親として
の尊い務めを相応しく果たすことができますように、光と
力を与えて下さい。



おめでとうございます！

[目次](#)

《 図書案内 》

「私がそれである」

小林有方 信仰叢書③ 幻想集

神戸生まれの著者、小林有方は大阪教区司祭、副司教を経て、45 歳から司教として仙台教区長を 21 年間務め、その間にアメリカ、カナダ等を廻って講演し、頂いた献金でいくつかの教会を建設した程のその話術はかなりのもので、著書も相当ありますが、私の母方の大叔父という事もあるって、出版する度にもらっていた中の一冊で、小林司教が引退後の晩年に朝の祈りの後、一時間ほどの黙想時に浮かんで見えた幻想など思い描いて書き記した作品です。新約聖書にそって、その時、その場にまるで居合わせたかの様に書かれていて、思わず引き込まれて最後まで読んでしまいました。

第 1 章 マリアの子、イエス、ベツレヘムへ

「ヨセフはダビデ王の血筋を引いていた、といっても千五百年も昔の祖先の系列であるから、ダビデの血統と言っても数えきれない程の人びとがいるに違いない。不幸にしてヨセフもその一人であった。そしてなお不幸なことには、ヨセフは神御自身のすすめでマリアを世間体では妻としていたので、ダビデ家の血統につながる者として、身重であるマリアも本人自らダビデの町と呼ばれるベツレヘムまで出向かなければならなかったのである。」

「マリアがロバの背に落ち着けたと見たヨセフは微笑む妻と共に、もう一度見送ってくれる近所の人々に頭を下げるとロバのくつわを手には歩きはじめた。」

「ヨセフはロバの手綱を引きながらベツレヘムの町に足を踏み入れたが、ヨセフがもしやと恐れていたその最悪の状態が実は二人を待ち構えていたのである。」この後、馬小屋を貸してくれた宿屋の女将さんの大活躍で、私たちの主、イエス・キリストが無事にお生まれになりました。

第一章 「マリアの子、イエス」 馬小屋、生誕、不思議な星、
十二歳のイエス、ヨセフの死

第二章 「御子キリスト」 エッセネ派、クムラン教団、イエスの瞑想、
サマリアの女…

第三章 「神の国」 カファルナウム、神の国は近付いた、決断、召命…

第四章 「愛と赦しの秘義」 姦通の女、最大の掟、救世主(メシア)とは？…

全 287 ページです。

住吉教会 2 階図書室に寄贈したいと思いますので、お読みいただければ幸いです。

M. T.

[目次](#)



《後 記》

クリスマスおめでとうございます。

ついこの間小さな馬小屋を「又、来年」と思いながらかたづけたように思いますのに、アッと云う間に時は過ぎ、今年も又クリスマスを迎えました。

この一年も本当にいろいろな出来事がありました。喜ばしいこと、うれしいこと、悲しいこと、痛ましいこと・・・・。

「すべての事の中に主は居られる」と読んだことがあります。どうぞそのことを深く悟らせて下さいますように。

A. H.

数えてみると 76 年も前の幼稚園のクリスマス劇の写真に、母が白いシートで作ってくれた衣装を着た私が写っています。

その時に芽生えたイエスさまとの小さなつながりの芽が、途中何度か中断しながらも今日まで枯れずに生き続けていることに、ただただ感謝しています。

今年も大きな自然災害に何度も見舞われ、悲しくつらい思いでクリスマスを迎えられる方が大勢いらっしゃると思います。

幼子からのやさしい恵みの光が、その方たちの心を慰め癒し、明日へと伸びる芽となって届きますようにとお祈りしています。

J. Y.

教会案内

ミサ

主日ミサ	日曜日	9:30
	第 1・第 3 土曜日	19:00
	スペイン語	

週日ミサ	火・金曜日	9:30
------	-------	------

講座

信仰講座	傘木神父ミサ担当日曜日	10:45
信仰の分かち合い	第 2・第 4 日曜日	10:45
聖書研究	傘木神父ミサ担当金曜日	10:15

<u>教会学校</u>	第 1・第 3 土曜日	14-16:00
-------------	-------------	----------

対象：小学校 1 年生～6 年生

<u>評議会</u>	第 3 日曜日	11:00
------------	---------	-------

<u>野宿者支援炊出し</u>	第 1 土曜日	9:30 住吉教会集合
-----------------	---------	-------------



[目次](#)

「すみよし」第 194 号

発行日	2014年12月24日
発行責任者	ブラッドリー神父／コンスルタ神父
編集・印刷・発行	広報チーム
発行所	神戸市東灘区住吉宮町2-18-23 カトリック住吉教会
TEL	078-851-2756
FAX	078-842-3380

<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>